

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース
公募制・卒業生子女	小論文	ビジネス学部	ビジネス学科	—
受験番号	氏 名			採 点

問題 今井悠介『体験格差』（講談社 2024年）3－4頁には、以下の記述がある。

「昨年の夏、あるシングルマザーの方から、こんなお話を聞いた。

息子が突然正座になって、泣きながら『サッカーがしたいです』と言ったんです。

それは、まだ小学生の一人息子が、幼いなりに自分の家庭の状況を理解し、ようやく口にできた願いだった。たった一人で悩んだ末、正座をして、涙を流しながら、私が本書で考えたい『体験格差』というテーマが、この場面に凝縮しているように思える。

私たちが暮らす日本社会には、様々なスポーツや文化的な活動、休日の旅行や楽しいアクティビティなど、子どもの成長に大きな影響を与え得る多種多様な『体験』を、「したいと思えば自由にできる（させてもらえる）子どもたち」と、「したいと思ってもできない（させてもらえない）子どもたち」がいる。そこには明らかに大きな「格差」がある。

その格差は、直接的には「生まれ」に、特に親の経済的な状況に関係している。年齢を重ねにつれ、大人に近づくにつれ、低所得家庭の子どもたちは、してみたいと思ったこと、やってみたいと思ったことを、そのまままっすぐには言えなくなっていく。

私たちは、数多くの子どもたちが直面してきたこうした『体験』の格差について、どれほど真剣に考えてきただろうか。『サッカーがしたいです』と声をしぼり出す子どもたちの姿を、どれくらい想像し、理解し、対策を考え、実行してきただろうか。」

このような「体験格差」を解消するために、どのような具体的対策が有効であるか、あなたの考えを600字以上800字以内で述べなさい。

2025年度 共立女子大学 公募制推薦・卒業生子女推薦入学者選抜 解答用紙

No. 2

試験種類 (どちらかに○をつけてください)	科 目	学 部	学 科	専攻・コース	
公募制・卒業生子女	小論文	ビジネス学部	ビジネス学科	—	
受験番号		氏 名			採 点

解答用紙

[illegible] (25×32)